

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	旭区
学校名	大阪市立城北小学校
学校長名	高濱 将幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・城北小学校では、第6学年 39名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の平均正答率は、国語科においては、全国平均を10.8ポイント下回り、算数科では全国平均を16ポイント下回った。理科では、22.1ポイント下回った。

平均無解答率は国語科においては全国平均よりも5.7ポイント高く、算数科では全国平均より6.6ポイント高くなっている。理科では、12.3ポイント高くなっている。

3教科とも全国平均を大きく下回る厳しい結果となった。無回答率はどの教科も全国比で顕著に高くなっている。学習へ向かう意欲や自信の無さが表れている。文章の読み取りに苦手意識があり、題意を正しく把握できていない問題も多かった。そこで、今年度も引き続き国語科を研究教科とし、教員の指導力を高め、児童の国語力の向上に努めたい。また、算数科においても、引き続き、基礎基本の定着をめざすとともに、児童の苦手な分野を分析し、個に応じた指導・支援に取り組むことで児童全体の学力の向上を目指していく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語科では、全国平均正答率を10.8ポイント下回った。対全国比は0.84となった。児童は、話し手の意図を踏まえて内容を捉えることや、目的に応じて文章と図表を関連付けて必要な情報を見いだすことを苦手としている。また、事実と意見を区別したり、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したりする力も育成する必要がある。そこで、国語科では要約や図表の読み取りを重ねるとともに、社会科や理科でも資料を集め、分類・関連付けて説明する力を養っていきたい。実際に「調べる→整理する→伝える」という流れを繰り返すことで、資料を活用する力を着実に育成していきたい。しかし、課題が多く見られた調査問題の中で、漢字の「暑い」を解答する問い合わせについては全国平均を超えることができた。日常生活に結び付けやすい語であり、経験と関連させて学習してきた成果が表れたと考えられる。今後は、このように身近な体験や生活場面と関連付けて学習内容を定着させる工夫を、他の領域にも広げていくことが重要である。一方、国語に関する児童質問では、「国語の勉強が好き」と最も肯定的に回答する児童の割合は、全国値を11ポイント上回っている。また、「国語の授業で学んだことは将来役に立つ」と回答する児童も全国平均より高くなっている。一方で「授業の内容はよく分かりますか」の質問には、否定的な回答が全国値より9.9ポイント多い。これらの結果から、授業研究を進める中で国語科へのよい印象や有用性は感じているものの、学習内容の理解を伴っていないことがわかり、本校国語科教育の課題と言える。

〔算数〕

算数科では、平均正答率が全国より16ポイント下回り、対全国比は昨年度0.85から0.72に下降した。領域別に見ても、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべてで全国比20ポイント前後低くなっている。目的に応じて表やグラフを適切に選択し、数値の増減を判断したり、そこから読み取った内容を説明したりする力に課題がある。大阪市全体と同様に、データを活用する学びは今後さらに充実させたい分野である。また、分数の意味や表し方に関しては、単位分数に着目して考える力に課題が見られた。さらに、伴って変わる二つの数量の関係を見抜き、必要な数量を見出して式や言葉で表す力も育成の余地が大きい。論理的に立式したり、自分の考えを言葉で説明したりする学びを重ねることで、確かな力へとつなげていきたい。基礎的・基本的な理解の定着を必要とする児童が多く、今後は反復練習や具体的な体験活動を重ねることで、着実に力を伸ばしていきたい。習熟度別学習にて、小さな達成を積み重ねる中で自信を育て、より発展的な学びにもつなげていきたい。質問紙調査でも「算数の勉強は好き」「内容がよくわかる」「将来役に立つと思う」の項目で、全国平均を大きく下回っており、算数に対する意欲の低さが表れている。低学年から算数の技能を確実に身に着けさせることを意識し、子どもたちがスマールステップで「できた」「わかった」と実感できる授業づくりが急務である。

〔理科〕

理科では、平均正答率が35と、全国平均から22.1ポイント低かった。無回答率は15.1で、全国より著しく高くなっている。基本的な知識が十分に身についていないことから、事象を適切な言葉で表現することに課題が見られる。また、児童は事象と実験条件を結びつける発想力にも課題があり、例えば、そろえる条件と変える条件を明確にした実験設定が難しいことが分かる。さらに、観察や測定の結果から原因と結果を結びつけて説明する考察力も十分ではなく、結果を言語化する経験の不足が影響していると考えられる。加えて、得られた知識を別の条件に応用して予想する力にも課題があり、仮説表現や「もし～ならば～だろう」という思考の経験不足が背景にあると推察される。これらを踏まえ、段階的な整理・観察・言語化する等の学習手立てを講じていきたい。「理科の授業の内容はよくわかりますか」の質問に肯定的に答える児童の割合は全国平均値より、10.6ポイント低く、よくわからない、難しいと感じていることがわかる。一方で、「将来理科や科学技術に関係する職業に就きたいか」との質問では、全国値より5.1ポイント高くなっている。理科にかかわる仕事への関心は高い。子どもたちの要求に応えるべく理科学習の充実を図っていく必要がある。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問において、最も肯定的に回答した児童の割合は51.4%で、全国平均より4.1ポイント高い結果となった。また、「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」といった項目でも、全国平均を上回る肯定的な回答が得られている。本校で取り組んできた人権教育や「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」の肯定的回答が全国平均よりも14.6ポイントも高く地域連携活動の成果が表れ、児童の内面的な成長が確認できた。

一方で、否定的な回答が全国を上回る項目も複数見られ、依然として自分のよさを見いだせない児童や、十分な自己肯定感を持てない児童の存在も明らかになった。今後は、児童がさらなる自信を育み、夢や目標を実現できるよう、人権教育やキャリア教育の一層の充実を図るとともに、社会貢献意識を継続的に高められる取組を推進し、肯定的な回答の割合を全体的に向上させていきたい。

また、人間関係や学校生活に関わる質問として「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では最も肯定的に回答する児童の割合が86.5%で全国平均より5.1ポイント、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問では43.2%で全国平均を10.1ポイント高かつた。児童が人権尊重の姿勢を身につけているとともに教職員との信頼関係を築き、学校を安心できる居場所を感じている児童が多いことを示している。しかし、否定的な回答をした児童もいる。児童の個性や状況に応じた丁寧な関わりをしっかりと行い、全ての児童が安心して相談できる環境をさらに整えることが重要である。また、いじめ防止の意識を形だけで終わらせず、具体的な行動や日常生活での相互理解につなげる取組を継続することで、より安全で信頼に満ちた学校づくりを進めていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

○PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度や活用による個別最適な学びや協働的な学びについては、今後さらに伸ばす余地があることが明らかになった。文章作成やインターネットによる調べ学習などの技術面については肯定的な回答が多いことから、これらの成果を活かし、さらに効果的な活用を進めることで、児童一人ひとりの学びの充実や協働的な学習活動の活性化が期待される。今後はICT機器の操作・活用力をさらに高める指導や、授業への実践的な取り入れを工夫することで、個別最適な学びと協働的な学びの双方をより一層充実させていきたい。

○人権教育を基盤とした「仲間づくり」と「学力向上」を今後も全校で行う。

○研究教科を昨年度に続き国語科とした。児童の実態を基にした課題設定や、発問の工夫、様々な交流の場の設定による話し合い、学習の振り返りを充実させる授業研究を行う。「学力向上支援チーム事業」より派遣されたスクールアドバイザーによる指導を年間を通じて受け、国語の指導力向上を図る。

○「学力アップアシスト事業」を活用し、今後も基礎基本となる学力の定着を図るとともに、個に応じた指導・支援の充実を図り、きめ細かい指導を継続して行う。

○たてわり班活動をはじめとする異年齢交流を積極的に行い、自己の役割意識や自己有用感を高めることで、自己肯定感の向上に努める。

○課題解決に向けて粘り強く取り組む児童の育成を目指し、探究的活動や問題解決型学習を取り入れた授業改善に取り組んでいく。

【 全体の概要 】

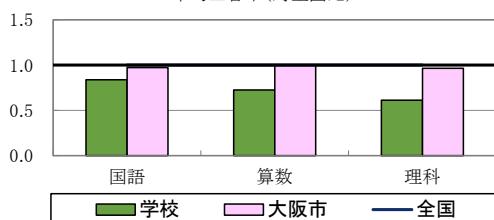
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	56	42	35
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

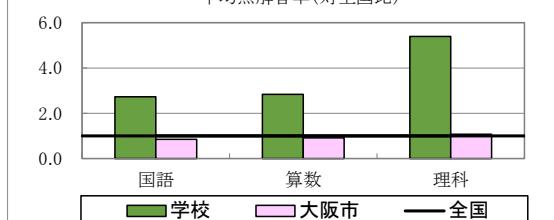
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	9.0	10.2	15.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



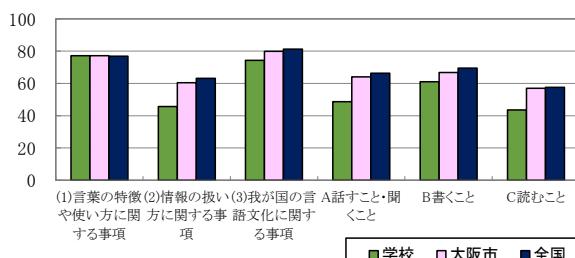
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	45.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	74.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	48.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	43.6	56.9	57.5

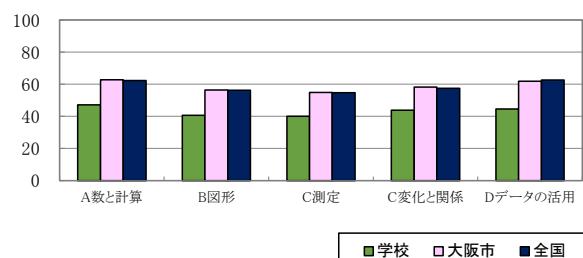
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	47.1	62.7	62.3
B 図形	4	40.7	56.4	56.2
C 測定	2	40.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	43.8	58.2	57.5
D データの活用	5	44.6	61.9	62.6

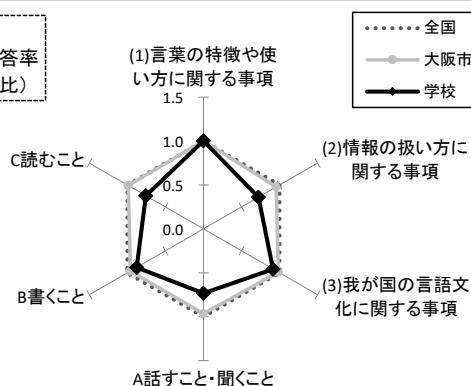
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



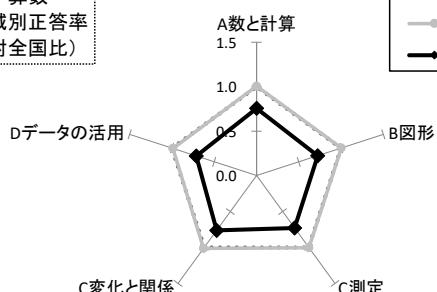
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

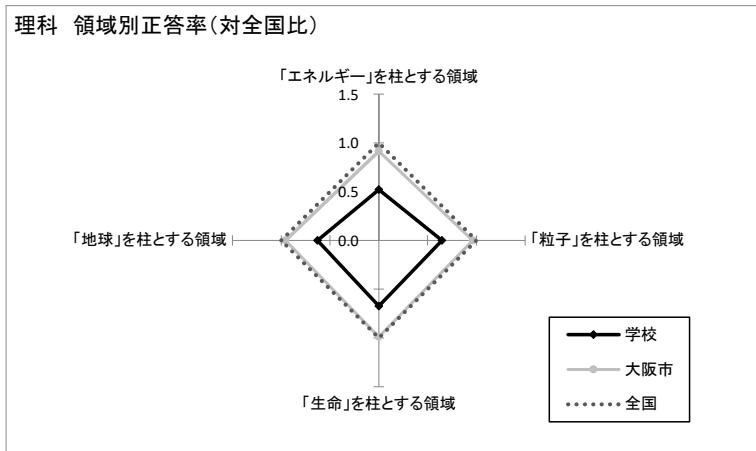
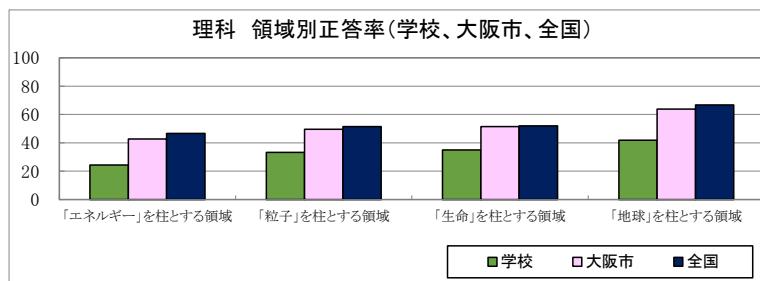


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 分 区	「エネルギー」を 柱とする領域	4	24.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	33.3	49.5	51.4
B 分 区	「生命」を 柱とする領域	4	35.0	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	41.9	63.8	66.7



学校質問より

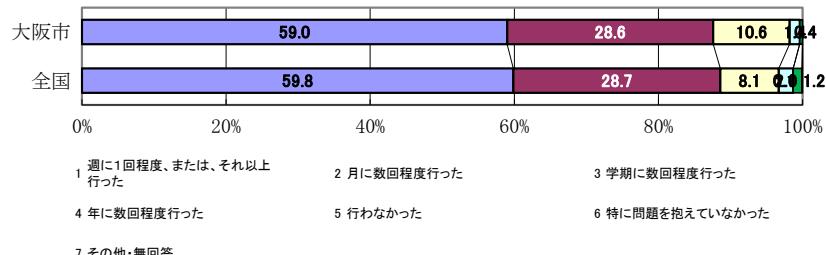
■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか。

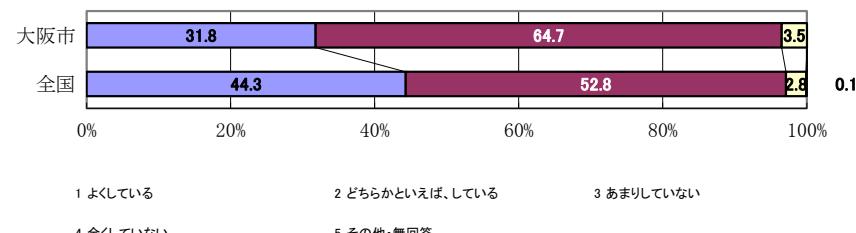
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

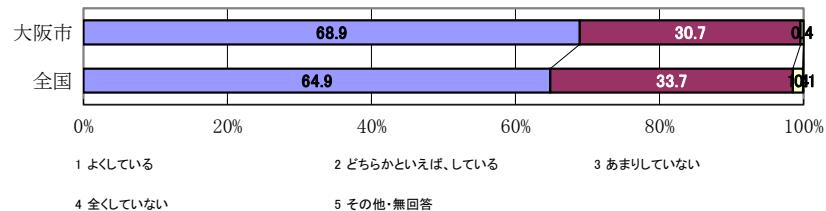
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか。

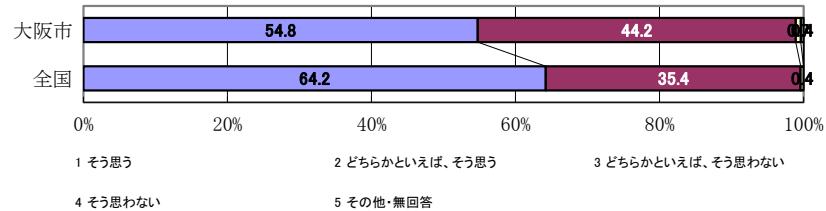
学校 「よくしている」を選択



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか。

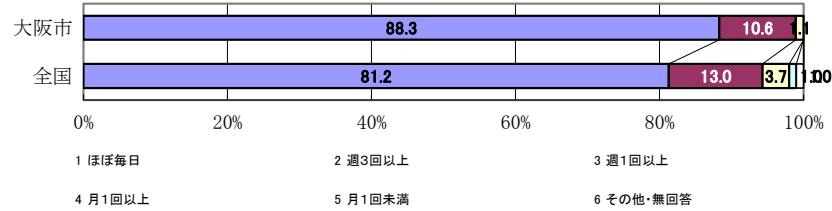
学校 「そう思う」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。

学校 「ほぼ毎日」を選択



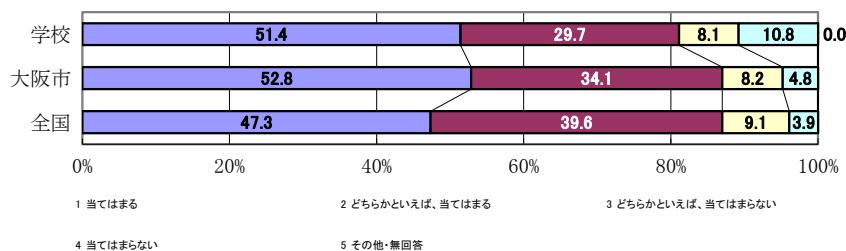
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

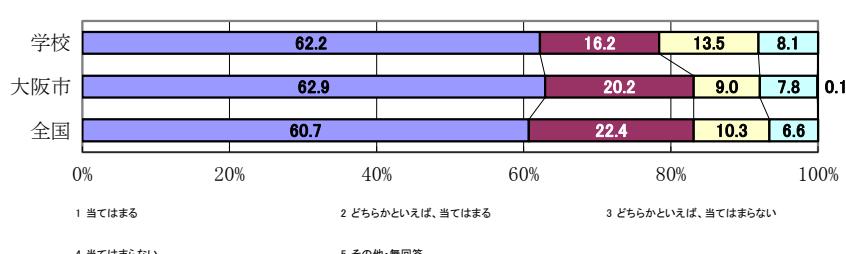
5

自分には、よいところがあると思いますか



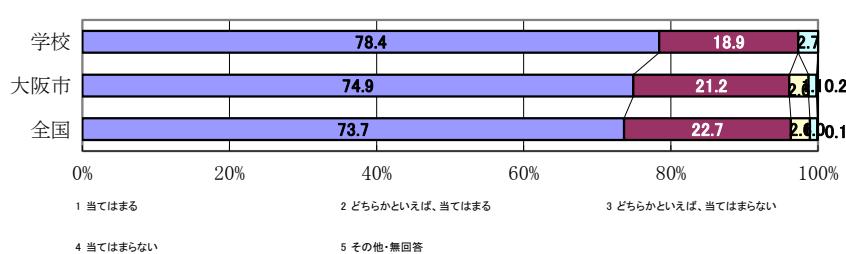
7

将来の夢や目標を持っていますか



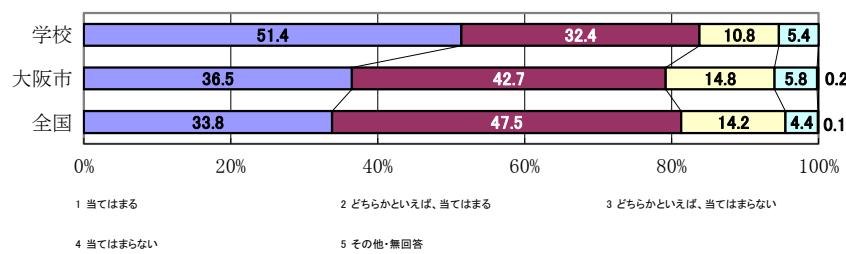
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



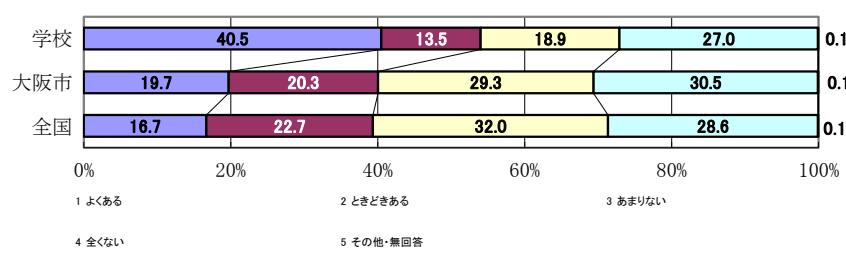
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



26

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)



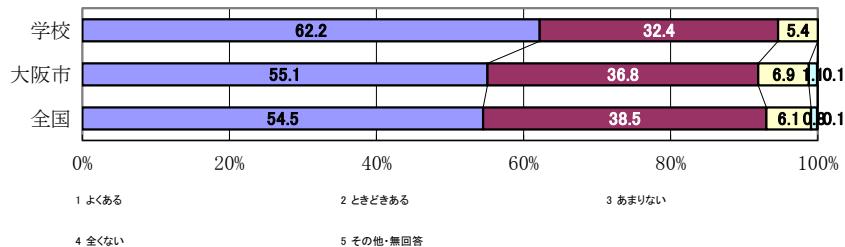
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

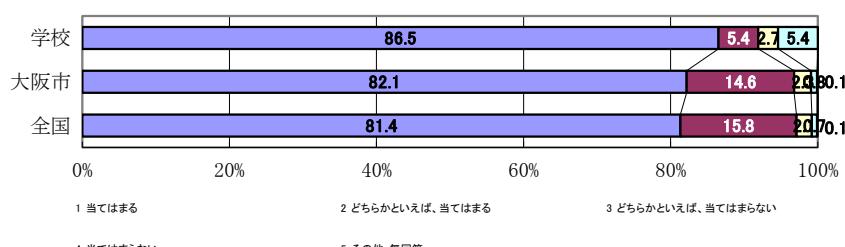
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



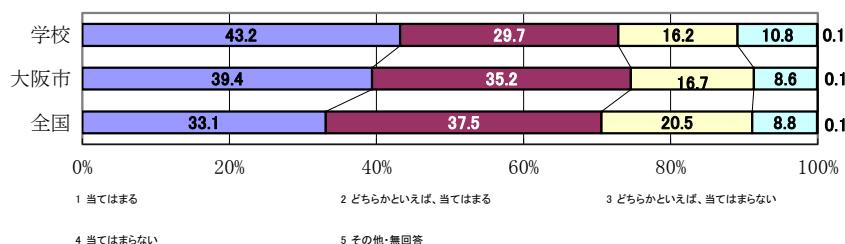
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



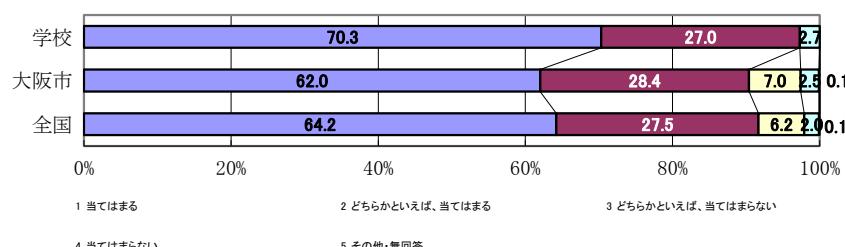
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



14

友達関係に満足していますか



31

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

